第２回
室戸市保育所及び学校
適正規模・適正配置等
検討委員会　資料

・令和３年７月２８日（水）１９時００分

・室戸市役所２階　第１会議室

学校保育課

〈次　第　書〉

令和３年７月２８日（水）１９時００分

１．　開会

２．　教育長あいさつ

３．　自己紹介

４．　副委員長の選出

５．　議事

（１）室戸市における保育所及び学校の現状

（２）適正規模・適正配置アンケート結果報告

（３）意見交換

（４）その他

室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置等検討委員会　委員名簿

令和３年度

No.	委員氏名	役職	備考
1	見津田　秀賢	校長会　事務局	吉良川小学校　校長
2	海老川　悦子	公立保育所　代表	大谷保育所
3	清水　美和	私立保育所　代表	吉良川第一保育所　園長
4	藤田　勇人	室戸高校　校長	
5	北村　卓	室戸高校　PTA会長	
6	白竹　博信	佐喜浜小中学校　PTA会長	
7	松村　宗介	室戸小学校　PTA会長	
8	宮﨑　一志	室戸中学校　PTA会長	
9	谷本　恵司	元小学校　PTA会長	
10	貝川　和嗣	吉良川小中学校　PTA会長	
11	濱田　昭	羽根小中学校　PTA会長	
12	前田　康司	佐喜浜保育所　保護者会長	
13	松本　将道	菜生保育所　保護者会長	
14	谷村　正幸	むろと保育園　保護者会長	
15	見津田　優希	大谷保育所　保護者会長	
16	高﨑　君明	元保育所　保護者会長	
17	藤本　陸	吉良川第一保育所　保護者会長	
18	東野　裕一	羽根昭和保育所　保護者会長	
19	松岡　敏幸	学識経験者	
20	武井　知香	教育次長兼学校保育課長	
21	北村　和之	地域代表者（企業）	泉井鉄工所
22	松尾　拓哉	地域代表者（移住者）	漁師
23	小松　伸稔	常会長連合会　会長	

保育所及び学校の津波浸水予想

	施設名称	津波浸水 区域・区域外	津波 浸水予測 （最大浸水深）	津波浸水 予測時間 （浸水深30cm到達予測）
公立 保育所	佐喜浜保育所	浸水区域外		
	大谷保育所	浸水区域外		
	羽根昭和保育所	浸水区域	0.3～1.0m	40～60分
私立 保育所	菜生保育所	浸水区域	5.0～10.0m	20～30分
	むろと保育園	浸水区域外		
	元保育所	浸水区域外		
	吉良川第一保育所	浸水区域外		
小学校	佐喜浜小学校	浸水区域	2.0～3.0m	20～30分
	室戸小学校	浸水区域	1.0～2.0m	30～40分
	元小学校	浸水区域	3.0～5.0m	20～30分
	吉良川小学校	浸水区域外		
	羽根小学校	浸水区域	2.0～3.0m	20～30分
中学校	佐喜浜中学校	浸水区域	0.3～1.0m	20～30分
	室戸中学校	浸水区域	5.0～10.0m	20～30分
	吉良川中学校	浸水区域	3.0～5.0m	20～30分
	羽根中学校	浸水区域外		

・全16施設中、浸水区域にある保育所及び学校は9施設

○室戸市における保育所の現状について

令和3年度　保育所入所児童数（令和3年7月）

保育所名		利用定員	0才	1才	2才	3才	4才	5才	計
公立	佐喜浜保育所	30	0	5	4	4	3	4	20
	大谷保育所	30	2	6	4	2	4	9	27
	羽根昭和保育所	40	0	1	3	7	6	5	22
小　計		100	2	12	11	13	13	18	69
私立	菜生保育所	20	2	6	2	7	2	2	21
	むろと保育園	90	6	7	16	15	24	17	85
	元保育所	30	3	5	4	6	3	5	26
	吉良川第一保育所	50	1	3	8	11	6	7	36
小　計		190	12	21	30	39	35	31	168
合　計		290	14	33	41	52	48	49	237

直近4年間の地区別0歳児数

年度	佐喜浜	室戸	元	吉良川	羽根	合計
平成29年度	7	20	6	14	5	52
平成30年度	4	24	5	10	6	49
令和元年度	8	26	2	2	1	39
令和2年度	4	18	8	8	5	43

室戸市保育所統廃合の流れ

年月日	内容		備考
平成7年	椎名保育所	休止	
平成15年3月31日	椎名保育所	廃止	施設の老朽化
平成15年3月31日	都呂保育所	休止	児童の減少
平成17年3月31日	佐喜浜保育所・都呂保育所	統合	都呂保育所を増築、佐喜浜保育所として再開所
平成27年3月31日	吉良川保育所	廃止	吉良川保育所を改修し、吉良川第一保育所として開所
平成28年3月31日	室戸岬保育所	廃止	津波浸水区域、児童の減少
平成29年3月31日	室津保育園	廃止	高台移転むろと保育園へ
平成29年3月31日	室津郷保育園	廃止	高台移転むろと保育園へ
平成30年3月31日	三高保育所	廃止	津波浸水区域、児童の減少

○室戸市における小中学校の現状について

児童生徒数の推計（令和3年度～令和8年度）　（単位：人）

	学校名	R3.7月現在の推計					
		R3	R4	R5	R6	R7	R8
小学校	佐喜浜小学校	34	34	31	28	27	29
	室戸小学校	197	181	187	185	174	170
	元小学校	10	9	11	14	14	12
	吉良川小学校	47	50	53	56	59	49
	羽根小学校	64	52	49	43	38	29
小学校　計		352	326	331	326	312	289
中学校	佐喜浜中学校	14	15	14	18	18	18
	室戸中学校	122	126	101	88	77	87
	吉良川中学校	19	22	19	20	16	21
	羽根中学校	40	40	32	34	29	29
中学校　計		195	203	166	160	140	155
合計		547	529	497	486	452	444

室戸市小中学校統廃合の流れ

休・廃校年月	学校名	休・廃校	統合先	最終年度在籍児童生徒数（中学校卒業生除く）
平成13年3月31日	椎名小学校	休校	三高小学校	3
平成18年3月31日	椎名小学校	廃校	三高小学校	0
平成19年3月31日	日南小学校	廃校	吉良川小学校	2
平成20年3月31日	佐喜浜小学校入木分校	廃校	佐喜浜小学校	5
平成22年3月31日	室戸岬中学校	廃校	室戸中学校	21
平成23年3月31日	室戸東中学校	廃校	室戸中学校	10
平成28年3月31日	三高小学校	廃校	室戸小学校	11
平成31年3月31日	室戸岬小学校	廃校	室戸小学校	5
令和3年3月31日	中川内小学校	廃校	羽根小学校	2
令和3年3月31日	中川内中学校	廃校	羽根中学校	3

○学年別通常学級児童数の推計（令和3年度～令和8年度）

【小学校】

網掛けは複式学級

学校名			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
佐喜浜小学校	R3	通常学級児童数（人）	5	6	5	7	6	4	33
		通常学級数	1	1	1		1		4
	R4	通常学級児童数（人）	3	5	6	5	7	6	32
		通常学級数	1		1		1		3
	R5	通常学級児童数（人）	3	3	5	6	5	7	29
		通常学級数	1		1		1		3
	R6	通常学級児童数（人）	4	3	3	5	6	5	26
		通常学級数	1		1		1		3
	R7	通常学級児童数（人）	4	4	3	3	5	6	25
		通常学級数	1		1		1		3
	R8	通常学級児童数（人）	8	4	4	3	3	5	27
		通常学級数	1	1	1		1		4
室戸小学校	R3	通常学級児童数（人）	31	31	31	24	25	47	189
		通常学級数	2	2	1	1	1	2	9
	R4	通常学級児童数（人）	31	31	31	31	24	25	173
		通常学級数	1	2	2	1	1	1	8
	R5	通常学級児童数（人）	30	31	31	31	31	24	178
		通常学級数	1	1	2	2	1	1	8
	R6	通常学級児童数（人）	24	30	31	31	31	31	178
		通常学級数	1	1	1	2	2	1	8
	R7	通常学級児童数（人）	25	24	30	31	31	31	172
		通常学級数	1	1	1	1	2	2	8
	R8	通常学級児童数（人）	29	25	24	30	31	31	170
		通常学級数	1	1	1	1	1	2	7
元小学校	R3	通常学級児童数（人）	2	3	2	1	0	2	10
		通常学級数	1		1		0	1	3
	R4	通常学級児童数（人）	2	2	3	2	1	0	10
		通常学級数	1		1		1	0	3
	R5	通常学級児童数（人）	2	2	2	3	2	1	12
		通常学級数	1		1		1		3
	R6	通常学級児童数（人）	4	2	2	2	3	2	15
		通常学級数	1		1		1		3
	R7	通常学級児童数（人）	2	4	2	2	2	3	15
		通常学級数	1		1		1		3
	R8	通常学級児童数（人）	1	2	4	2	2	2	13
		通常学級数	1		1		1		3

○学年別通常学級児童数の推計（令和3年度～令和8年度）

【小学校】

網掛けは複式学級

学校名			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
吉良川小学校	R3	通常学級児童数（人）	4	12	2	9	5	10	42
		通常学級数	1	1	1		1		4
	R4	通常学級児童数（人）	10	4	12	2	9	5	42
		通常学級数	1	1	1		1		4
	R5	通常学級児童数（人）	9	10	4	12	2	9	46
		通常学級数	1	1	1		1		4
	R6	通常学級児童数（人）	13	9	10	4	12	2	50
		通常学級数	1	1	1		1		4
	R7	通常学級児童数（人）	8	13	9	10	4	12	56
		通常学級数	1	1	1	1	1		5
	R8	通常学級児童数（人）	2	8	13	9	10	4	46
		通常学級数	1	1	1	1	1		5
羽根小学校	R3	通常学級児童数（人）	7	9	9	11	10	14	60
		通常学級数	1	1	1	1	1	1	6
	R4	通常学級児童数（人）	5	7	9	9	11	10	51
		通常学級数	1	1		1	1	1	5
	R5	通常学級児童数（人）	7	5	7	9	9	11	48
		通常学級数	1	1		1	1	1	5
	R6	通常学級児童数（人）	6	7	5	7	9	9	43
		通常学級数	1	1		1		1	4
	R7	通常学級児童数（人）	5	6	7	5	7	9	39
		通常学級数	1	1		1		1	4
	R8	通常学級児童数（人）	1	5	6	7	5	7	31
		通常学級数	1		1		1		3

○学年別通常学級児童数の推計（令和3年度～令和8年度）

【中学校】

学校名			1年	2年	3年	計
佐喜浜中学校	R3	通常学級生徒数（人）	2	7	4	13
		通常学級数	1	1	1	3
	R4	通常学級生徒数（人）	5	2	7	14
		通常学級数		1	1	2
	R5	通常学級生徒数（人）	6	5	2	13
		通常学級数	1		1	2
	R6	通常学級生徒数（人）	7	6	5	18
		通常学級数	1	1	1	3
	R7	通常学級生徒数（人）	5	7	6	18
		通常学級数	1	1	1	3
	R8	通常学級生徒数（人）	6	5	7	18
		通常学級数	1	1	1	3
室戸中学校	R3	通常学級生徒数（人）	40	47	32	119
		通常学級数	1	2	1	4
	R4	通常学級生徒数（人）	43	40	47	130
		通常学級数	2	1	2	5
	R5	通常学級生徒数（人）	21	43	40	104
		通常学級数	1	2	1	4
	R6	通常学級生徒数（人）	24	21	43	88
		通常学級数	1	1	2	4
	R7	通常学級生徒数（人）	32	24	21	77
		通常学級数	1	1	1	3
	R8	通常学級生徒数（人）	31	32	24	87
		通常学級数	1	1	1	3

○学年別通常学級児童数の推計（令和3年度～令和8年度）

【中学校】

学校名			1年	2年	3年	計
吉良川中学校	R3	通常学級生徒数(人)	7	6	4	17
		通常学級数	1	1	1	3
	R4	通常学級生徒数(人)	8	7	6	21
		通常学級数	1	1	1	3
	R5	通常学級生徒数(人)	4	8	7	19
		通常学級数	1	1	1	3
	R6	通常学級生徒数(人)	8	4	8	20
		通常学級数	1	1	1	3
	R7	通常学級生徒数(人)	4	8	4	16
		通常学級数	1	1	1	3
	R8	通常学級生徒数(人)	9	4	8	21
		通常学級数	1	1	1	3
羽根中学校	R3	通常学級生徒数(人)	10	19	10	39
		通常学級数	1	1	1	3
	R4	通常学級生徒数(人)	14	10	19	43
		通常学級数	1	1	1	3
	R5	通常学級生徒数(人)	9	14	10	33
		通常学級数	1	1	1	3
	R6	通常学級生徒数(人)	11	9	14	34
		通常学級数	1	1	1	3
	R7	通常学級生徒数(人)	9	11	9	29
		通常学級数	1	1	1	3
	R8	通常学級生徒数(人)	9	9	11	29
		通常学級数	1	1	1	3

学級編制基準

高知県教育委員会

	小学校	中学校
単式	４０（小１は３５）	４０
複式 飛び複式	１６ ○第１学年の児童を含む学級にあっては８ ○いずれかの児童数が８人を超えるときを除く	８ ○いずれかの生徒数が４人を超えるときを除く

小学校	１学級	２学級	３学級	４学級	５学級	６学級	７学級	８学級	９学級
教員数	2	3	4	6	7	8	9	１０	１２

中学校	１学級	２学級	３学級	４学級	５学級	６学級	７学級	８学級	９学級
教員数	4	6	9	9	9	１１	１３	１４	１６

小学校における教員配置の基準

- １学級～３学級　　校長＋学級担任
- ４学級～８学級　　校長＋教頭＋学級担任
- ９学級～１３学級　校長＋教頭＋学級担任＋級外教員１

※但し、養護教諭及び学校事務職員の配置基準は、原則４学級以上

小学校	１学級	２学級	３学級	４学級	５学級	６学級	７学級	８学級	９学級
教員数	2	3	4	6	7	8	9	１０	１２

中学校における教員配置の基準

- １学級　　校長＋教員３
- ２学級　　校長＋教員５（もしくは、校長＋教頭＋教員４）
- ３学級～５学級　　校長＋教頭＋教員７
- ６学級　　校長＋教頭＋教員９

※但し、中学校教科は９教科（技術・家庭科があるため実質１０教科）のため、理論上専科教員が揃うのは６学級以上となる

※養護教諭及び学校事務職員の配置基準は、小学校と同様に原則４学級以上

中学校	１学級	２学級	３学級	４学級	５学級	６学級	７学級	８学級	９学級
教員数	4	6	9	9	9	１１	１３	１４	１６

室戸市の教育課題について

- 小・中学校児童生徒の学力向上
- 保・小・中教職員の資質・指導力向上
- 不登校やいじめ等の未然防止や初期対応
- 情報教育の推進
- 外国語活動等の充実
- 学校における働き方改革の推進
- 小中学校の高台移転を含めた小中学校の適正規模・適正配置について等

小規模校における課題について

- 教職員研修への参加や職場内研修の課題
- 不登校やいじめ等の未然防止や初期対応のノウハウ不足

【小規模校のメリット】

① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着が的確に把握でき、きめ細かな指導がしやすい。
② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
③ 様々な活動で一人ひとりがリーダーになる機会が多くなる。
④ 教材・教具などを一人ひとりに行き渡らせやすい。
⑤ 体育館や運動場、特別教室などが余裕をもって使える。
⑥ 複式学級では、教員が複数の学年間を行き来する間、相互に学び合う活動を充実させることができる。
⑦ 異年齢の活動が組みやすく、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
⑧ 地域の協力を得られやすいため、地域の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。
⑨ 保護者や地域と連携した効果的な指導ができる。

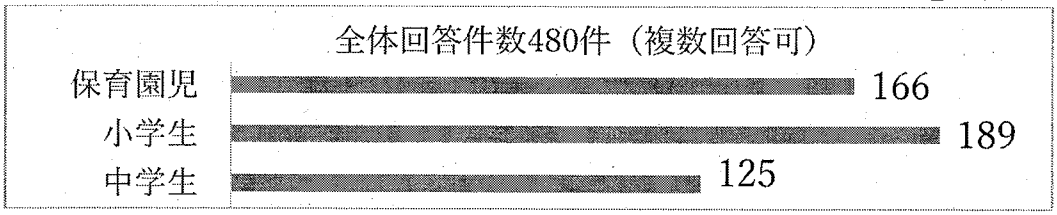
【小規模校のデメリット】　※学級数や教職員数が減少

① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。保育所から同じ集団の中で生活するため人間関係が固定されやすい。
② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
③ ティームティーチング、グループ指導、習熟度別指導などの多様な指導方法を取ることが難しい。
④ クラブ活動や部活動の種類が限定されたり、専門外の教員が部活動を指導する機会が増える。
⑤ 運動会、文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動の教育効果が下がる。
⑥ 男女比の偏りが生じやすい。
⑦ 上級生と下級生のコミュニケーションが少なくなり、模範となる先輩の数が少なくなる。
⑧ 体育の球技、音楽の合唱・合奏のような集団学習に制約が生じる。
⑨ 班活動やグループ分け、協同的な学習で制約が生じる。
⑩ 子どもたちの学力の定着・向上、生活習慣の定着などで、教員個人の力量への依存が高くなる。
⑪ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある。

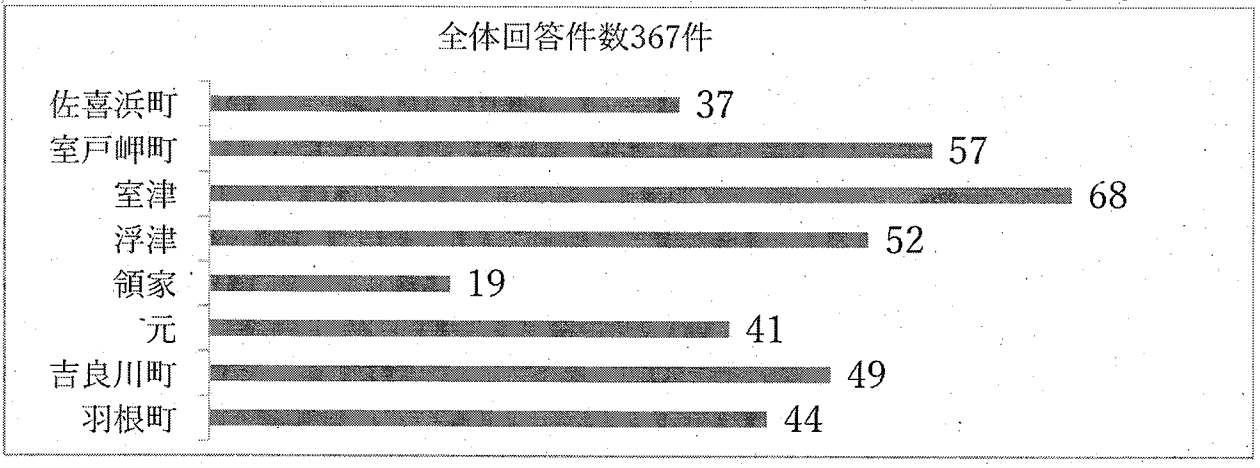
保育所及び学校適正規模・適正配置についてのアンケート調査結果

アンケート配付枚数 820 枚（小学校 292 枚、中学校 260 枚、保育所 268 枚）
アンケート回答件数 368 件（紙回答 243 件、Web 回答 125 件）
回答割合　約 45%　※ただし全児童生徒に配付しているため、世帯ごとの回答割合は 60%程度になると思われます。

【質問１】回答者の子どもの就学状況についてあてはまるものをお選びください。

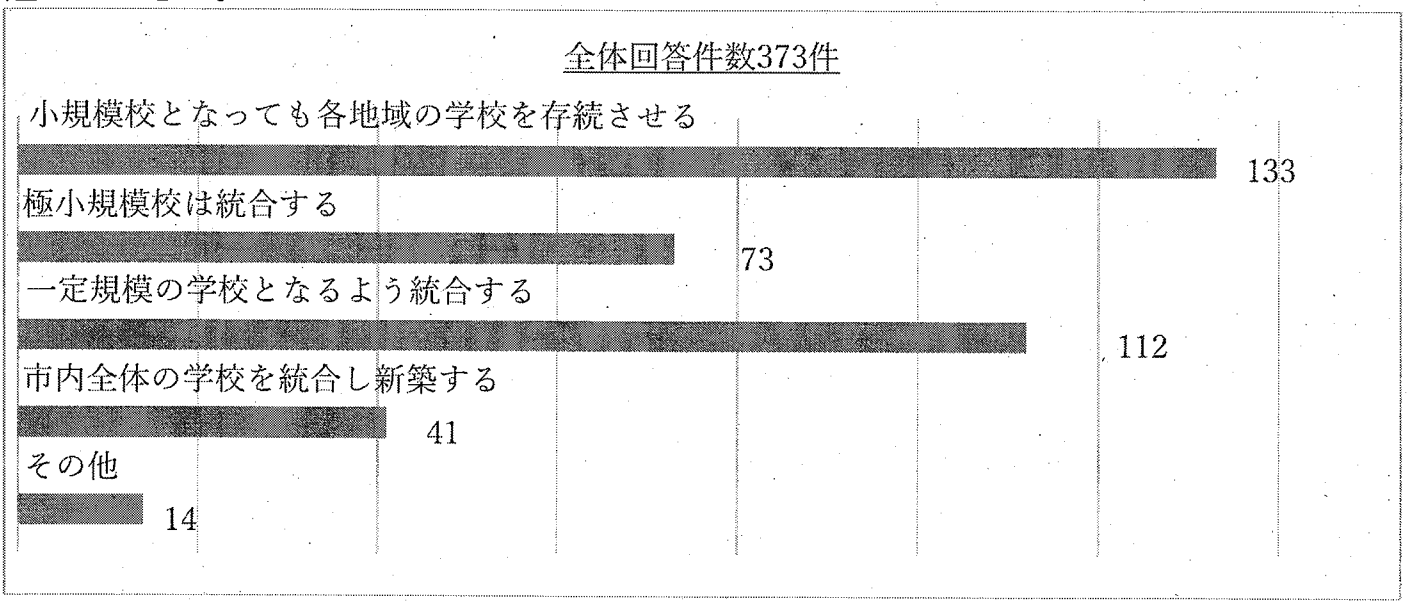


【質問２】回答者の居住地区についてあてはまるものをお選びください。

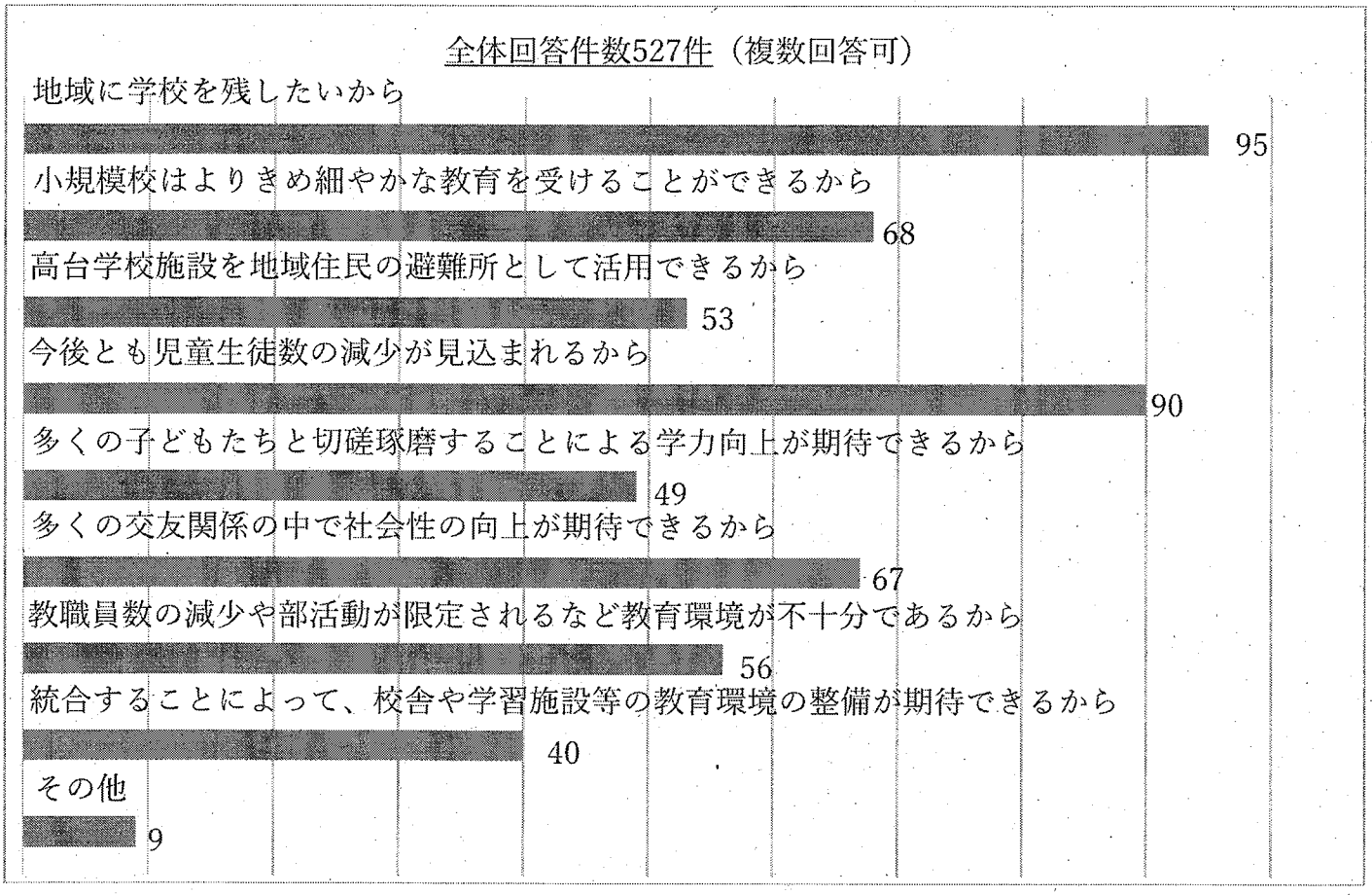


就学施設について

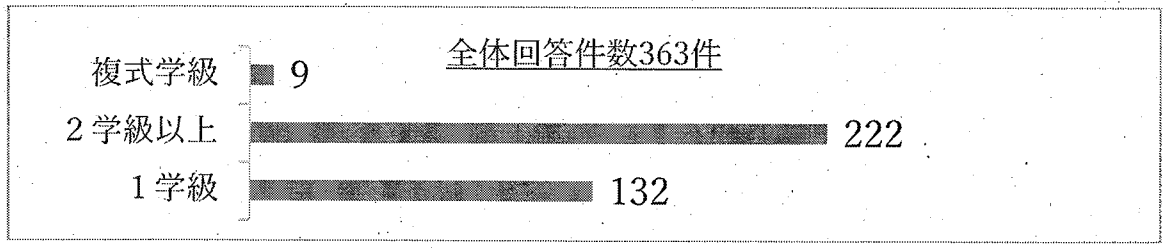
【質問３】南海トラフ地震対策として、学校の耐震を行っています。今後は、津波浸水区域外への移転の検討が求められており、検討を進めています。浸水区域外への移転を機会として、子どもたちの教育環境はどのようにあるべきとお考えですか。あてはまるものをお選びください。



【質問３－１】質問３にて、そのように回答した理由にあてはまるものをお選びください。

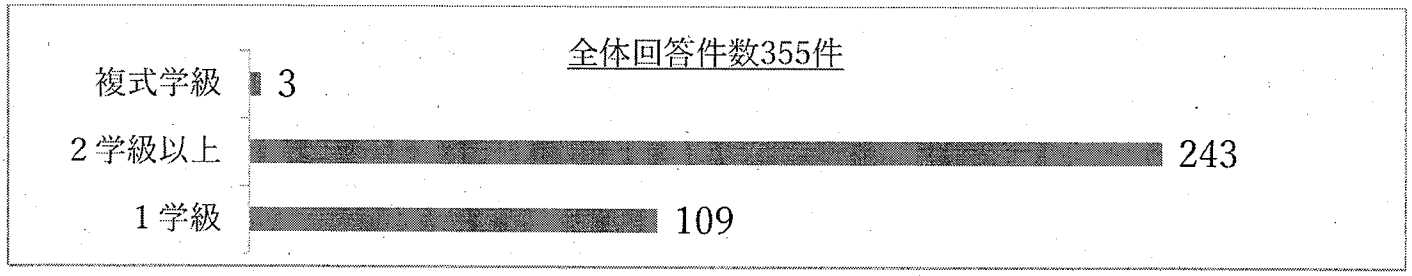


【質問４】望ましいと思う小学校１学年あたりの学級数について、あてはまるものに○をしてください。（※学校における適正規模は、文部科学省の規定では、小中学校ともに１学年 2～3 学級が標準とされています。）



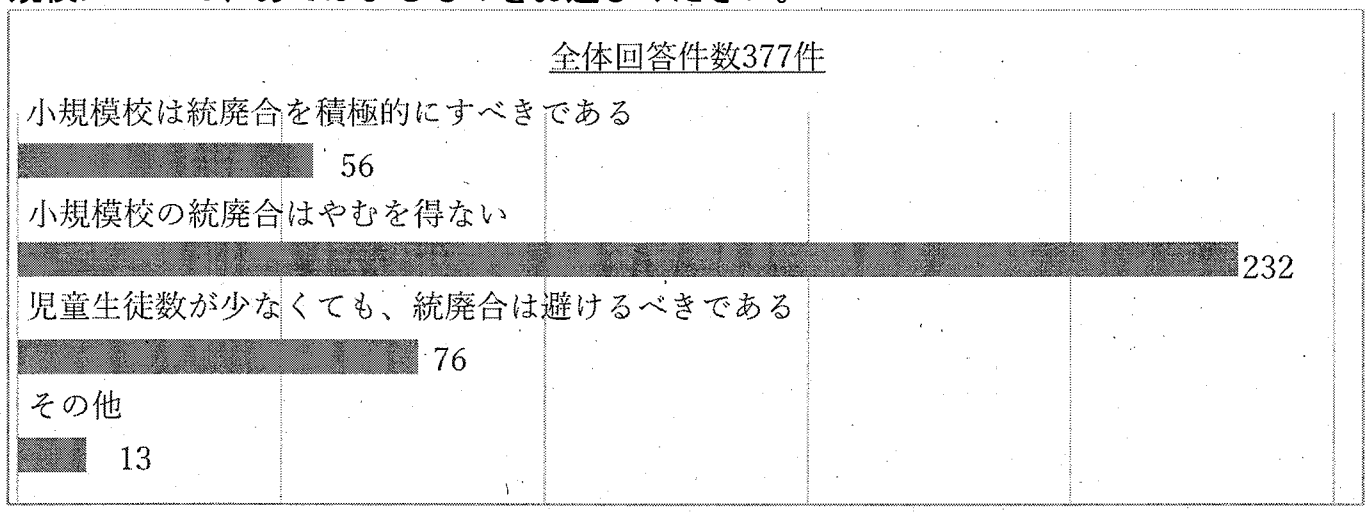
【質問４－１】質問４にて、そのように回答した理由をご記入ください。
※回答一覧は別紙のとおり

【質問５】望ましいと思う中学校１学年あたりの学級数について、あてはまるものに○をしてください。（※学校における適正規模は、文部科学省の規定では、小中学校ともに１学年 2～3 学級が標準とされています。）

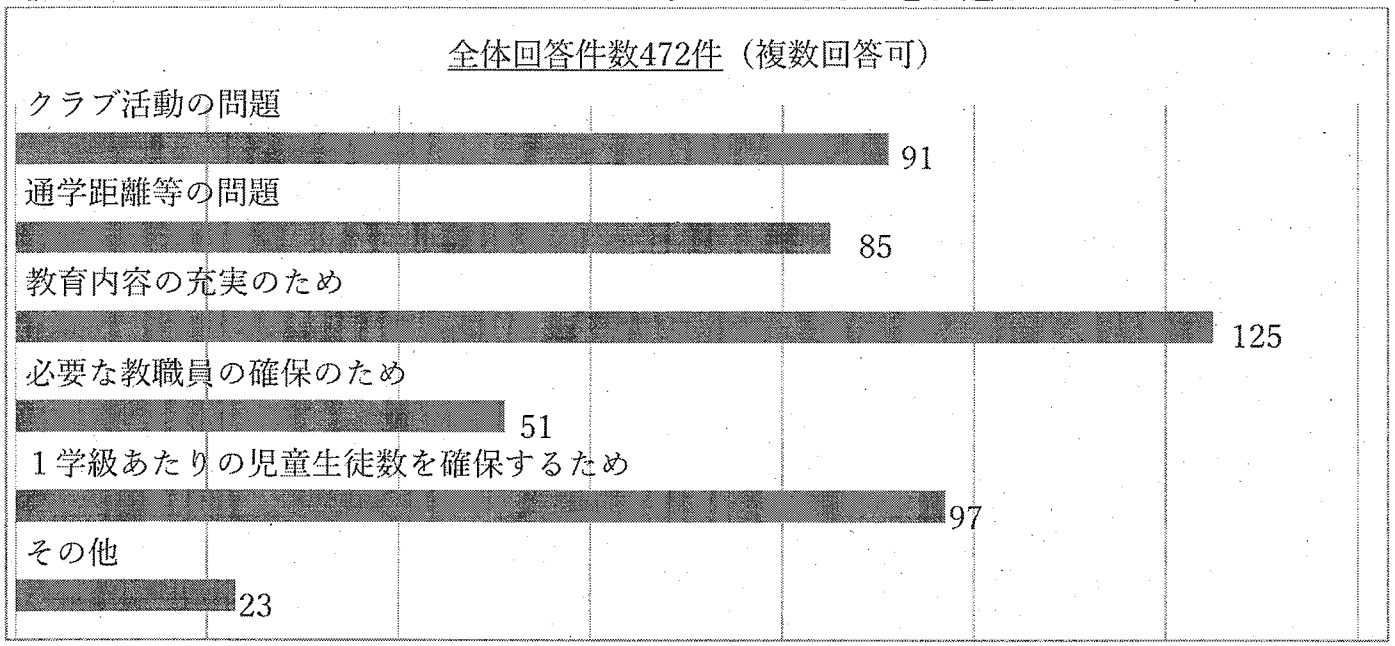


【質問５－１】質問５にて、そのように回答した理由をご記入ください。
※回答一覧は別紙のとおり

【質問６】今後、児童生徒数が大きく減少することが見込まれている市内小中学校の適正規模について、あてはまるものをお選びください。

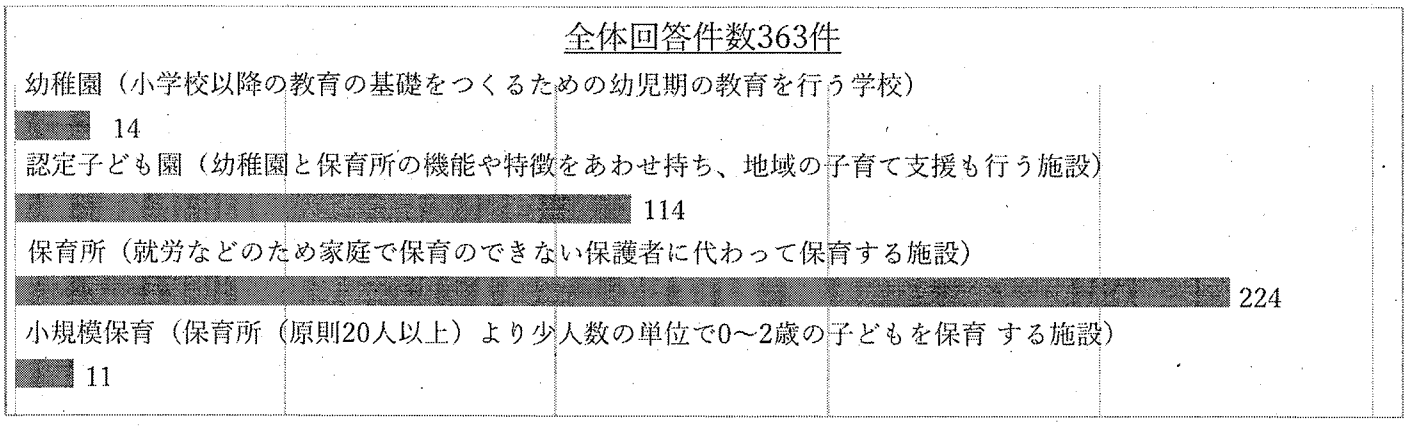


【質問６－１】質問６にて回答した理由にあてはまるものをお選びください。

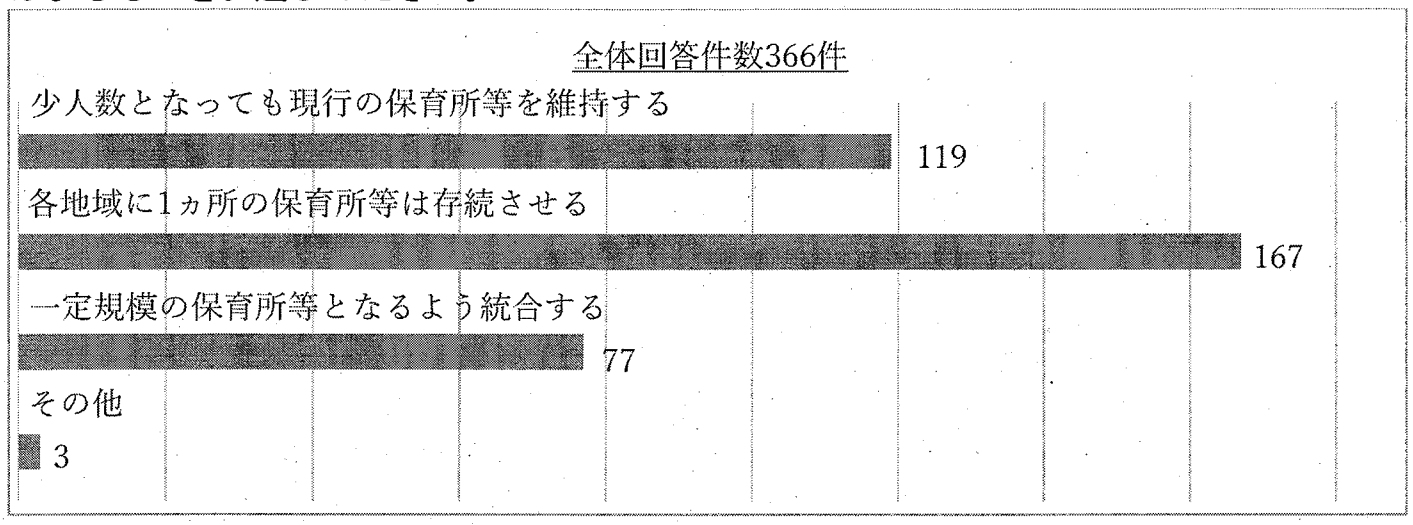


保育所について

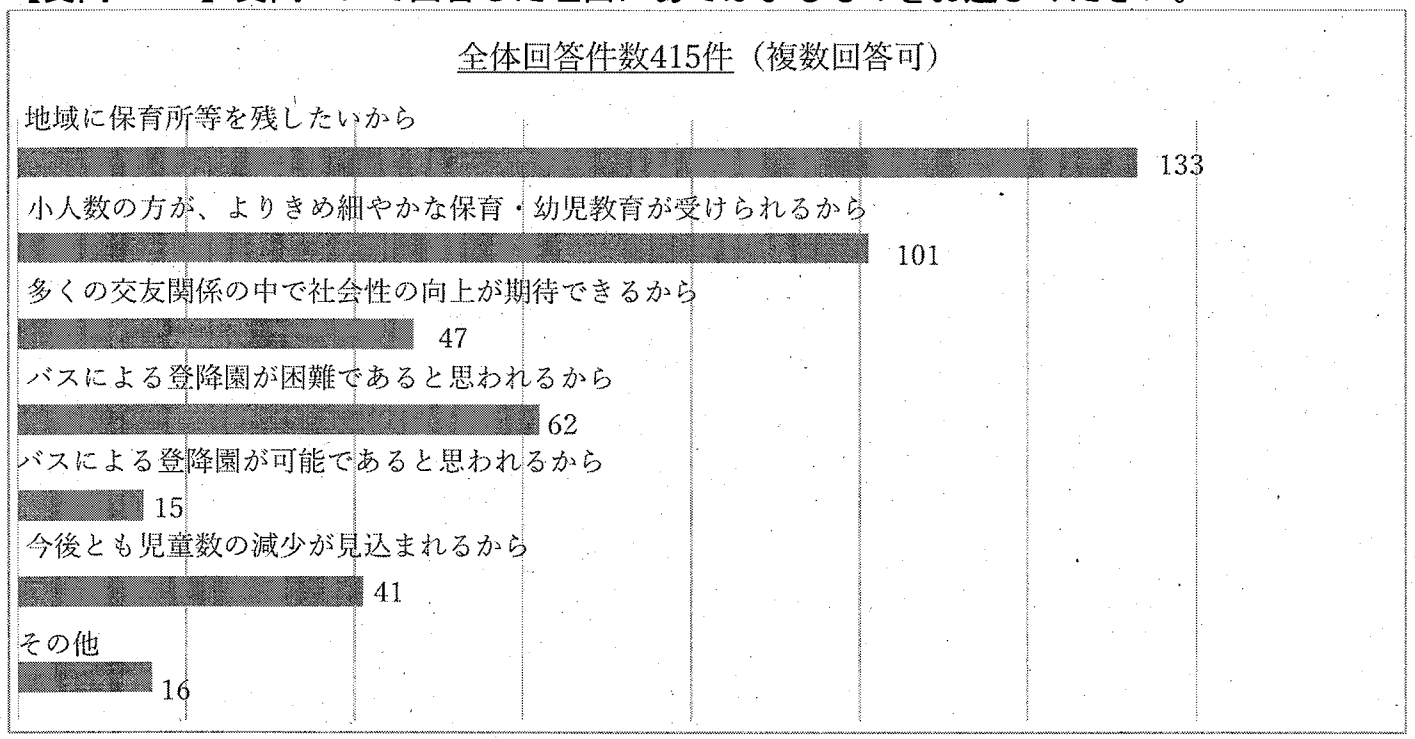
【質問７】どのような保育や幼児教育施設が望ましいと考えますか。



【質問８】今後、子どもの数が大きく減少することが見込まれている中、南海トラフ地震対策や適正規模の観点からどのような保育や幼児教育施設が望ましいと考えますか。あてはまるものをお選びください。

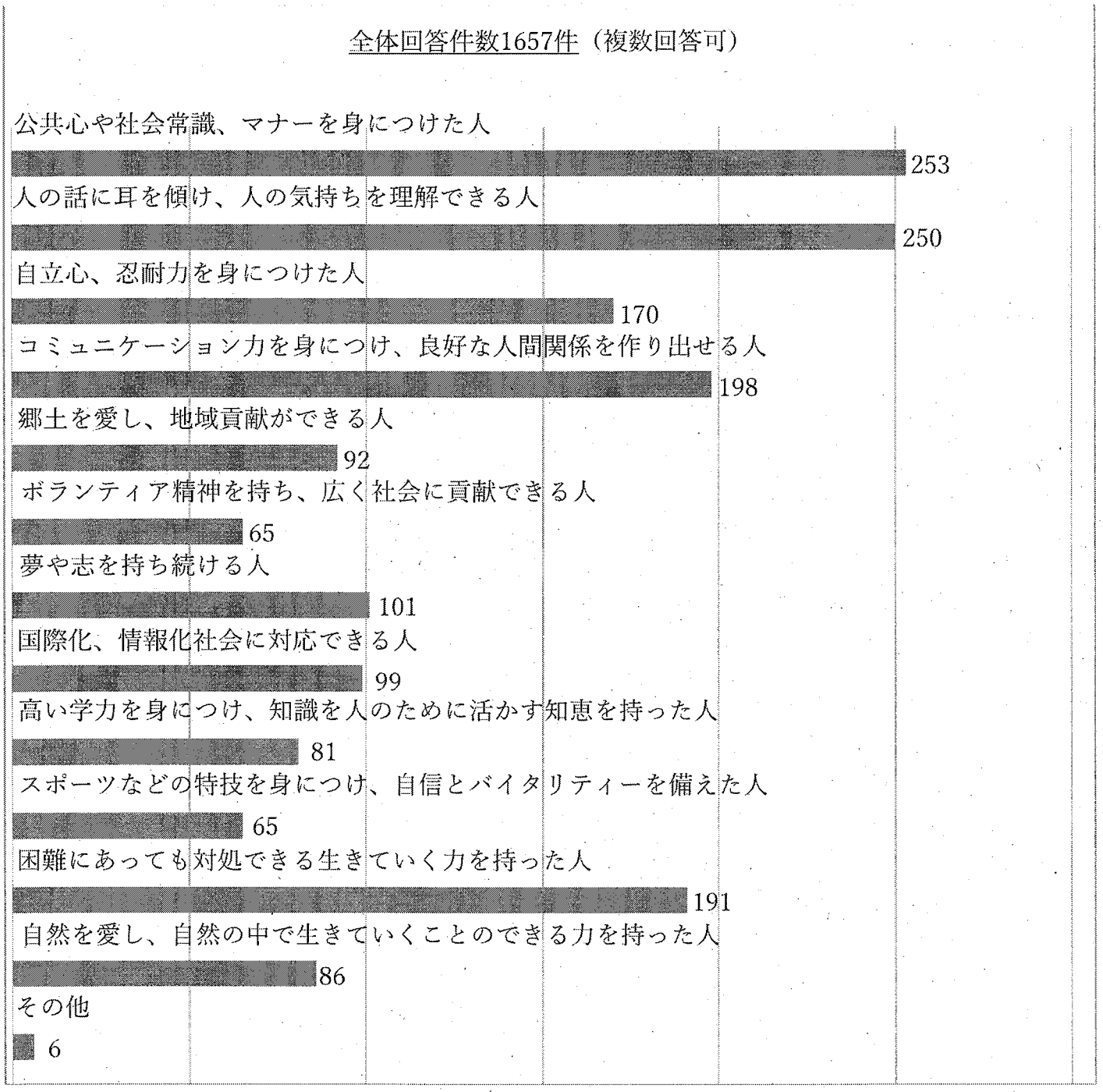


【質問８－１】質問８にて回答した理由にあてはまるものをお選びください。



子どもたちの将来像について

【質問９】室戸市の子どもをどのような人に育てていくことが大切だと考えますか。あてはまるものをお選びください。（複数回答可）



１学級を選んだ方の意見

1クラス30人ぐらいがちょうど良い
友達とのかかわりが深まるから
人数が少しでも多いほうが友達も作りやすいと思います。
お友達を把握することができるから
たくさんの人数で色々経験してほしい。
多少、人数の多い１学級にして担任、副担任をおき、生徒同士の学力競争と共に協調性や社会性も身に付けて欲しい。
1学級の方が教育も行き届くと思うから

２学級以上を選んだ方の意見

児童1人１人に目が届きやすくなる。教員の負担も減ると思う。
いじめ等があった場合、ずっと同じクラスではかわいそう
子供が３９人学級なので教室が手狭。先生も大変だと思う。
小学校でのきめ細かい学力指導及び生活指導をお願いしたい
クラスの人数が少なくなれば先生の目も行き届く
交友関係が多く持てる。クラス変えの楽しみ。
複数学級のほうが様々な社会性を身につけられそうだから
個々の学習への集中力が向上できそうだから
クラス替えがあることで多くの生徒とふれあうことができる
その時の児童数によるがあまりに１学級にすると子供に目が届かなくなる
少人数のほうが先生の目が届くと思うから。
きめ細やかな教育を受けるため
１学級の人数が少なければ、子供たちへの配慮ができるから。
クラス分けもあり、色々な人間関係によって、対応する力を身につけるため
きめ細やかな教育を受けれるから
先生の目が行き届きやすいと思うから
クラスの人数が多くなりすぎると、先生の注意も全体に生きづらくなりいじめや子供の変化に気づけなかったりすると思うから
複数の学級にすることで、クラス対抗行事やクラス替えなど、1学級では経験できないことが多数あるため
クラス対抗などで同学年と競いあったり、いじめがあったときも複数クラスならば、同じクラスにならないよう配慮してもらえそうだから
細やかな教育を受けることが出来るから
少人数での学習がいいと思うから。

複式学級を選んだ方の意見

児童生徒数の減少が見込まれるから
今の学校が複式学級で、上の学年の子が教えてくれたりしているから
生徒が少ないなら少ないなりに生徒の解らない所の説明や対応をゆっくり出来ると思うから。

その他

子供の成長にあった時間があった方が良い
学級数は子供の数によって決めたらいいと思います。

１学級を選んだ方の意見

人数が多いほうが学年での順位がわかりやすい
友だちとの関りが深まるから
程よく人数がいたほうが学力向上につながると思うから
仲の良いことクラスが別になるとかわいそうだし、なかなか環境の変化に対応できない子も中にはいるから
色んな子ども同士の関りができる為、ある程度の人数がいた方がよいと思うから。
授業の進行に差がでる
ある程度人数がいたほうが切磋琢磨できる
人数が少ないといじめがあった時に学校に行きにくくなる可能性が高い、

２学級以上を選んだ方の意見

クラスの人数が多くなりすぎると、先生の注意も全体に生きづらくなりいじめや子供の変化に気づけなかったりすると思うから
個人の状態を把握するのに２学級以上あるほうが良いと思う。
子供が３９人学級なので教室が手狭。先生も大変だと思う。
クラス替えの楽しみを体験してもらいたいから
成長し多感な時期にもなるのでもっと多くの人と知り合う事も大事だと思っています。
複数学級のほうが様々な社会性を身につけられそうだから
クラスが多いと刺激があり学力を高める事ができる。部活動の選択肢が増える
少人数だと先生の目が届くと思うから
ちょうど２～３学級がバランス良いかなと。
分けれるなら分けたほうが細やかな指導ができると思う
一クラスだといじめがあったりしても逃げる事ができず、結果不登校などになりかねない。
人数により2学級以上にした方が生徒に細やかな対応が出来る
子供の学力等が、教科事の先生に把握しやすくなると思うから
1クラスにまとめてしまうと、教師の目が行きとどかないから
学習がより難しくなるのに、1学級では支援が行き届かないと思うので。
人間関係の固定化を防げるため。
仲のいい子とばかりではなくて、他の友達とも交流がある方が社会性が身につくと思うからです。
交友関係の中で社会性の向上が期待できるから
クラス対抗などで同学年と競いあったりいじめがあったときも複数クラスならば、同じクラスにならないよう配慮してもらえそうだから
行事ごとが1クラスだと、無理がある
学年内又は、クラスごとの交流が出来るから。
勉強が難しいので、2学級に分けて授業を受けた方が理解しやすいと思う。
クラス対抗など、切磋琢磨してほしい。
子どもたちの対抗意識など変化があるから
受験に向けて、少人数で教育を受けられる機会が増えるから。

複式学級を選んだ方の意見

子供の成長にあった時間があった法が良い

その他

学級数は子供の数によって決めたらいいと思います。

～適正規模アンケートのまとめ～

【小中学校】

- 小規模となっても地域に学校を残してほしいという意見が約３割
- 統合はやむを得ない、統合すべきという意見が約６割
- 学級数については複数学級が望ましいという意見が約６割、１学級が約３割

【保育所】

- 現行の保育所または地域に一つは残してほしいという意見が約８割
- 一定規模の保育所となるよう統合するという意見が約２割

～第１回目の検討委員会で出た意見～

- 災害等をメインに考えて。統合は必要。
- 子どもたちにとって良い環境を整えたい。
- 少人数で手厚い教育と大人数で集団での教育とどちらが良いか。
- 将来的には小学校・中学校各１校になるのではないか？土佐清水等の事例も参考に検討してほしい。小中高を１つの敷地に建設することも検討をしてほしい。
- 保育所については各地域にほしい。
- 東日本大震災をうけて、保育所は高台移転した。基本は各地域にほしいが、高台移転が必要な園は統合も検討が必要。
- 自分自身が統合を経験した。統合はつらいし子供たちがなじめるか心配。
- 各家庭の意見によるが、小規模校を望んでいる家庭もあると思う。
- 学級数により教職員が減少した場合、専門分野の先生がいなくなると受験にも影響が出てくる。
- 統合しすぎると転出する家庭などもでてくると思うのでバランスを取ってほしい。
- 統廃合の案を出してほしい。

室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置等検討委員会設置要綱

（設置）

第１条　室戸市の保育所及び学校の適正規模・適正配置等を検討するため「室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置等検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

（職務）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項の検討を行い、その結果を教育長に報告するものとする。

⑴　保育所及び学校の適正規模・適正配置

⑵　その他、市の保育・教育のため必要な事項

（組織）

第３条　委員会は次に掲げる者のうちから教育長が委嘱又は任命した２５人以内の委員をもって構成する。

⑴　保育所・学校関係者代表

⑵　保護者代表

⑶　地域代表者

⑷　学識経験者

⑸　行政関係者

（任期）

第４条　委員の任期は、委嘱又は任命の日から第２条に係る報告を行った日までとする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に委員長１名、副委員長１名を置き、委員の互選によりこれを定める。

２　委員長は委員会を代表し、会議を統括する。

３　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。

（会議）

第６条　委員会は、必要に応じ委員長が招集し、委員長は会議の議長となる。

２　委員会は、必要に応じて委員以外の者に出席を求め、意見を聞くことができる。

（庶務）

第７条　委員会の庶務は、学校保育課において行う。

（その他）

第８条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

（施行期日）

1　この要綱は、公布の日から施行する。

（室戸市小中学校統廃合検討委員会設置要綱の廃止）

2　室戸市小中学校統廃合検討委員会設置要綱（平成２５年教委告示第８号）は、廃止する。

（室戸市保育所統廃合検討委員会設置要綱の廃止）

3　室戸市保育所統廃合検討委員会設置要綱（平成２７年教委告示第１０号）は、廃止する。